



いとう
伊藤 おさむの議員レポート

ホット・ホット・越谷

平成 20 年 7 月 発行 No.23

TEL 048-986-9553

E-mail osamuchan@ae.wakwak.com

〒343-0841 越谷市蒲生東町 8 番 37 号

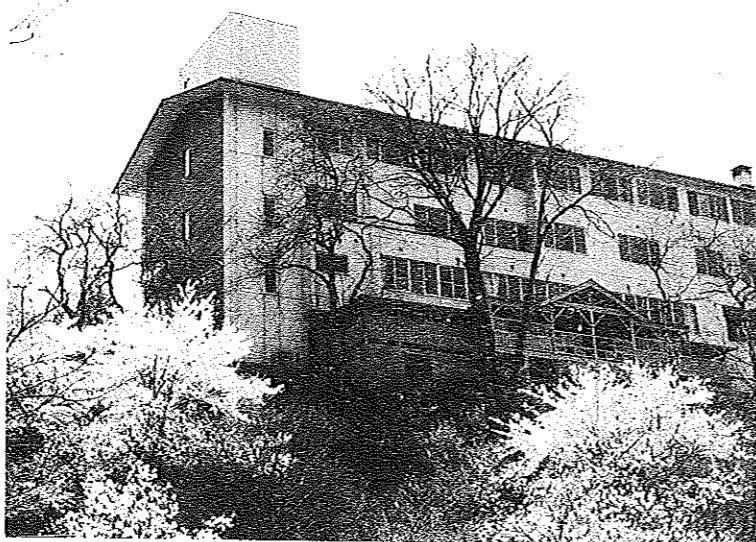
FAX 048-989-2397

URL <http://www.starosamuchan.com/>

高齢者に笑顔を！子どもたちに夢を！地域に活力を！

越谷市では、本年 4 月 1 日から「おがの山荘」の廃止に伴う措置として、「国民宿舎 両神荘」を越谷市の保養施設に指定し、年齢や加入の保険に関わらず全ての越谷市民が低料金でご利用できるように小鹿野町と提携を結びました。

これに伴い、越谷市民が「国民宿舎 両神荘」に宿泊する場合は、1 人(大人・小学生・有料幼児)につき 2,000 円が割引されます。



本館(和室 24 室)、別館(和室 12 室・洋室 4 室)、宴会場、会議室、体育館、大浴場(泉種/メタほう酸温泉)、かけ流し露天風呂などを完備しています。天然温泉 100%の「国民宿舎 両神荘」を是非ご利用ください。

予約先 「国民宿舎 両神荘」 TEL0494-79-1221

持論

先の六月定例会市議会において「副市長を二人から一人」にする条例改正案が可決された。

その大きな理由は、今年の三月定例会市議会で、市民から提出された「副市長一人制」を求める請願が採択されたことに伴い、関根前副市長が自主的に辞職し、もって今回の条例改正案が市長提出に繋がったものである。また、昨年の六月定例会市議会において議員提出議案として同様の案件が否決となったが、市民、四千三十五名の署名と共に提出された請願に対し、これまで難色を示してきた議員の心を揺さぶる結果になったことも要因の一つと考えられる。

しかし、これまで一環として反対の立場を貫いてきた共産党が、今回の市長提出議案に対し賛成の立場に廻ったことには理解が苦しむ。

市民の声を無視し、板川与党に迎合する姿勢ではなく、三十二万越谷市民にとって是非々々の行動を今後、共産党には期待したい。

越谷市議会議員伊藤おさむの議会報告！

「6 月定例会報告」

平成 20 年 6 月定例会市議会が、去る 6 月 2 日から 6 月 17 日までの 16 日間にわたり開催され、市長提出議案 15 件と議員提出議案 1 件が審議されました。可決された主な内容は、○男女共同参画支援センターの管理者を指定管理者に行わせることができることと行う業務の範囲を規定する改正条例○副市長の定数を「2 人以内」から「1 人」にする改正条例○市営住宅の入居者の資格に「暴力団員でないこと」などを規定する改正条例○議会選出監査委員に浅井明議員(自民党市民クラブ)・山本正乃議員(21 市民ネット・民主党)をそれぞれ同意可決○市制施行 50 周年にあたり、「越谷市平和都市宣言」を 11 月 3 日に宣言することを可決。また、議員提出議案として、「取り調べの可視化の実現を求める意見書」が全会一致で可決しました。※「取り調べの可視化」とは、来年 5 月までに裁判員制度が施行される予定ですが、取調べの過程で自白の任意性、信用性を迅速・的確に判断するために録画・録音することです。

JUNE 越谷市議会の主な動き



6 月定例会市議会が開催されるにあたり、私が所属する会派(自由民主党市民クラブ)に所属していた議員 1 名が退会しました。その後、新しく野口佳司議員が当会派に入会し、共に政策を議論していくことになりました。

6 月 2 日、越谷市議会が開会を迎えると、これまでの先例による正副議長の変更があり、新しく議長に小林仰議員(公明党越谷市議団)、副議長に原田秀一議員(新政クラブ)がそれぞれ就任いたしました。また、議会運営委員の任期が 1 年と条例で定められておりますので、あわせて初日に委員の選出を行いました。その後、板川市長から市長提出議案の説明がされ初日は散会となります。後日行われる一般質問に関しては、越谷市議会の場合 3 日間の日程をとっていますが、当会派からは金井議員が代表して市長に質問をしました。一般質問が終わると市長提出議案に対する質疑が行われ、その後、各常任委員会(4 委員会・定数 8 名)で市長提出議案の審査が行われました。越谷市議会最終日には、委員会で審査された結果を報告するとともに質疑・討論・採決が行われ閉会しました。以上が主な越谷市議会の動きですが、会派の議員の変更等があり、会派構成は次の通りになりました。

越谷市議会議員定数 32 名。新政クラブ 10 名(石川代表)、21 市民ネット・民主党 7 名(山本代表)、公明党越谷市議団 5 名(藤林代表)、自由民主党市民クラブ 5 名(伊藤)、共産党越谷市議団 4 名(金子代表)、無所属 1 名。

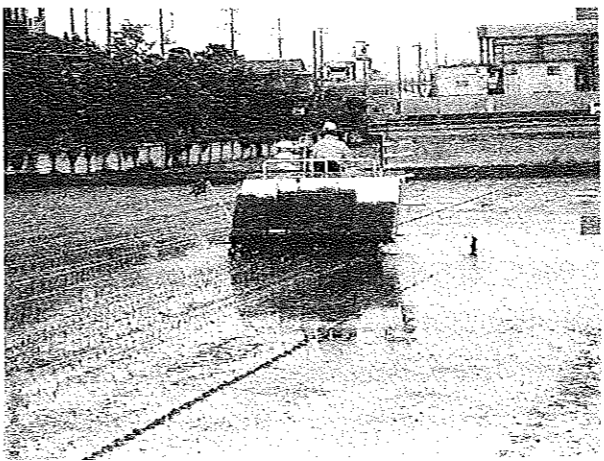
副議長退任のご挨拶

私は、昨年の 5 月臨時会において越谷市議会第 43 代副議長に就任させていただきましたが、この 6 月定例会市議会において先例に従い副議長を退任いたしました。約 1 年間、議長の補佐役として決して出過ぎた真似はせず重職を全うしてまいりましたが、これからは一議員として初心忘れることなく 32 万越谷市民の福祉向上に向け、さらなる発言をしていきたいと考えています。

田植え体験

五月二十五日、私は知り合いの農家へ行き、「田植え」のお手伝いをしてきました。当日は曇り空の中、日本人の主食である「米」が出来るまでについて、農家の方々とともに汗をかきながら学んでまいりました。

さて、「米」という字は八十八と書きますが、その由来は、初から育てて食べられるようにするまでに、八十八の手間がかかるとし、日本では水稲を作る際の手間の多さを例えられて



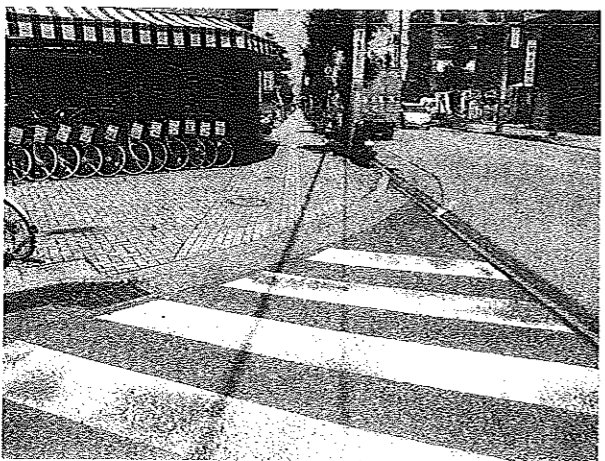
います。

「米」が出来るまでの作業としては、その種類や地域の違いによってそれぞれ異なりますが、今回訪れた農家では次のような作業の手順で「米」を作っています。

①年末に「一番耕(田起し)」を行い、一月・二月に「二番耕・三番耕」を行う②四月上旬に種まき③四月中旬に草刈をし、肥料を撒く④五月に代播き(田植えに備え土を軟らかくする)を行う⑤代播きの二・三日後に田植えを行う⑥稲刈りまでの間、丁寧に除草を行う⑦九月に稲刈り⑧その後、刈り取った藁を堆肥にし、田んぼに撒いて土に栄養をあたえます。以上が「米」が出来るまでの主な作業です。

今回、私がお手伝いをした田んぼで取れるお米は、「彩のかがやき」という種類で越谷市の学校給食にも使われているのですが、国内、或いは地域で取れたお米をいつまで日本人が主食としていられるのか危惧をしています。

て、二センチ以下か二センチを標準としていますが、その理由として、視覚障害者が安全な交通を確保するため、歩車道境界を明確に示さなければならず、白杖や足により容易に認知できるよう段差を設置しているとのことでした。



結論からすると、歩道と車道の段差に関しては、絶対に必要とのことでした。

何故なら、二センチの段差は歩道と車道とを区別するだけ

ではなく、段差にかかるとついで進む方向を定めることにも役立ついるからだそうです。今後に関しては、車いすの通る道幅だけ段差をなくすことや、段差を二センチから一センチにするなど、障害の種類に関係なく、誰もが安全で安心できる越谷市の道路政策を検討していきたいと考えています。

教育の衰退

六月二十一日、越谷市中央市民会館において、埼玉県教育委員長の高橋史郎氏を講師とした「教育を考える時局講演会」が開催されました。

講演会は、主催者である教育を再生する会会長(中野茂前越谷市教育長)の挨拶で始まり、講演での主な内容は、昨今、若者が起こす犯罪の背景には教育の衰退が考えられることを具体的に講演されました。今、教育界では、生きる力をなくくむことを推奨していきませんが、生きる力とは即ち「人間



それは、日本は現在も減反政策をとっていますが、その一方で世界貿易機関(WTO)において、日本に対し毎年七十七万トンの外国米の輸入を義務付けるという摩訶不思議な状況が続いているからです。

私は、日本の文化や伝統、或いは歴史などを守るためにも、日本人の主食である「米」は日本人によって作られるべきものだと考えています。そして、そういう当たり前の世の中にあることが私たち政治家の果たす役割ではないでしょうか。



力」のことです。人間力には三つの要素があり、一つは知的能力(IQ)。二つ目は社会対人能力、即ち対応する力。三つ目は自己制御能力のことです。今までは事件を起こしている殆どが、IQは高いが社会に対応する力がなく自分に対し制御が聞かなくなっていると思います。

今、何故この国の教育が衰退しているのか。教育の道は家庭の教養で芽をだし、学校の教養で花が咲き、世間の教養で実がなります。しかし、今は家庭の教養も世間の教養も衰退しています。だから学校で教えてく

バリアフリー

先日、市民の方から一本の電話をいただきました。

内容は、「自分は、車いすを利用して居るが、越谷駅から市立病院までの間、歩道と車道に段差があり難儀をしている。なんとか段差を無くせないか」との相談で、私は早速調査を行いました。



歩道と車道の段差については、国土交通省の「道路の移動円滑化整備ガイドライン」と埼玉県の「道路設計基準」におい

れということになっています。日本では、郊外で起きたことに対しても学校側に責任を求めていますが、アメリカなど他国では校内で起きたことに対しても親に責任を求められています。だから「親の責任」というものを明確にする必要があります。親というものは人生で最初の教師です。だから小学校に入る前に「ならぬものならぬ」と教える必要があるのではないのでしょうか。



今回の講演を聞いて、教育の根本は「親」にあると改めて感じる一日でした。